

今週（9月10日から9月14日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積みの最終日を睨んでレートが上下する展開となった。当座預金残高は、週を通して380兆円台半ばで推移した。

無担保コールO/N物は、積み最終日に向けた調整が活発化した先週の流れを引き継ぎ、週初から各業態から堅調な資金調達ニーズが聞かれたものの、週の後半に掛けては積みに目処を付けた先からの調達量が減少し、出会いの水準は徐々に低下していく展開となった。出会いの中心レートは、10日は▲0.07～▲0.035%、11日から12日にかけては▲0.08～▲0.035%、13日はそれまでレートの下支えとなっていた都銀業態の調達が限定的だったため▲0.086～▲0.035%と下限レートが切り下がり、一部出し残るオファーも見られた。実質的な積み最終日にあたる14日は、▲0.086～▲0.035%の出会いが中心となった。ターム物は、来積み期スタートの案件を中心に1～2W物のショートタームで▲0.03%近辺での出会いが散見された他、証券業態を中心に期越えのタームでの調達ニーズの活発化が見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは14日に2W物・8,000億円がオファーされ、1,881億円（期落ち額1,291億円）と札割れとなった。

10日には「日本銀行当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率の見直しについて」が公表され、2018年9月から2018年11月の積み期間の基準比率を34.0%（見直し前33.0%）とすることが決定された。政策金利残高（金融機関間で裁定取引が行われたと仮定した金額）の見直しについては、「5兆円程度となる見込み」と記載されていた。

●レボ市場

今週のO/N GCは積み期末が近づく中、投資家の資金調達ニーズがしっかりと見えたことで、レートは▲0.10%前後で安定した推移となった。週初10日のC/N▲0.10%前後での出会い、T/Nも同水準の▲0.10～▲0.09%での出会い。翌11日・12日もレート同水準での引合いとなった。13日のT/Nは積み最終日にかかることで投資家の資金調達ニーズがやや落ち込んだが、レートは大きく下げることは無く▲0.105～▲0.09%とほぼ水準に変わりは無かった。週末の14日T/Nは短国3ヶ月物の発行があったもののレートは引き続き動意無く、▲0.10～▲0.09%の出会いとなった。

SC個別銘柄では、5y134～136、10y340～350、20y164～165、30y57～59にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、一時の過熱感が落ち着いたことで、3Mゾーン中心に軟調な展開となった。

10日に実施された短国買入オペは、7,500億円がオファーされた。平均落札利回較差+0.002%、按分落札利回較差±0.000%と、応札額が29,774億円と多かったにしては、落ち着いた結果となった。

14日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.125～▲0.123%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1244%、按分落札利回▲0.1196%と前回債からレートは上昇したものの、概ね事前予想通りの結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、四半期末の有利子負債削減の動きからロールオーバーを見送る発行体もあり、週を通して落ち着いたマーケットとなった。そのため週間償還総額1兆2,000億円程度に対して、週間発行総額は8,000億円程度と償還超のマーケットとなった。市場残高は、13日時点で19兆2,562億円と、発行環境の良さを反映して、引き続き高水準で推移しているものの、期末償還金額は3兆円程度まで積み上がってきており、期末残高は16兆円台後半となることが予想される。前月よりは減少するものの、昨年の9月末残高14兆1,337億円から見れば大幅な増加となることが見込まれる。発行レートは、概ね0%近辺での決着が中心となっているが、CP等買入オペの予定オファー額が1回当たり4,500億円と手厚くなっていることによるオペ見合いの買いや、玉不足による投資家・ディーラーの玉確保ニーズの強まりから、一部の9月末越え銘柄については浅いマイナスでの決着も見られるなど、発行レートは全体的に低下傾向にある。

11日にはCP等買入オペが事前予想の4,500億円から500億円増額され、5,000億円がオファーされた。前回（4日）のオペから発行も膨らんでおらず、売却ニーズは限定的であったことから、按分落札レート▲0.016% 平均落札レート▲0.010%と、按分・平均とも前回（按分▲0.007% 平均▲0.004%）比で低下する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レボレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
9/10（月）	22,373.09	0.110	110.94	△ 0.054	△ 0.098	3,836,100
9/11（火）	22,664.69	0.105	111.45	△ 0.057	△ 0.098	3,852,400
9/12（水）	22,604.61	0.105	111.55	△ 0.058	△ 0.096	3,842,900
9/13（木）	22,821.32	0.105	111.42	△ 0.058	△ 0.117	3,850,100
9/14（金）	23,094.67	0.105	112.05	△ 0.062	△ 0.106	3,847,100

来週（9月18日から9月21日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
9/17 (月)	敬老の日		8月のユーロ圏消費者物価指数改定値
9/18 (火)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00～) 7月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB1Y 21,000億円 9/20発行	
9/19 (水)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00～) 8月の貿易統計(財務省 8:50) 日銀総裁定例会見(15:30)		8月の米住宅着工件数 8月の英消費者物価指数
9/20 (木)	4-6月期の資金循環統計速報(日銀 8:50)	20Y 10,000億円 9/21発行	8月の米中古住宅販売
9/21 (金)	8月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 42,700億円 9/25発行	

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/17 (月)	敬老の日								
9/18 (火)	1,100	11,200	12,300	国債買入 全店共通 CP買入 社債買入 国債補完	▲ 1,300 ▲ 900 ▲ 200 300	7,100 1,900	6,900	19,200	TB3M発行▲43000償還42900 2Y償還13200 個人向け3Y・5Y・10Y▲3600 個人向け3Y償還200
9/19 (水)	1,000	0	1,000				0	1,000	
9/20 (木)	0	74,000	74,000				0	74,000	国債の大量償還・利払い TB1Y発行▲21000償還10800 5Y償還25600 10Y償還41500 20Y償還3900 変動15Y償還5300 エネルギー対策借入▲7000期日6500
9/21 (金)	▲ 1,000	▲ 5,000	▲ 6,000	社債買入 被災地支援	▲ 800	1,000 800	1,000	▲ 5,000	20Y発行▲10000
週 間 合 計	1,100	80,200	81,300	—	▲ 2,900	10,800	7,900	89,200	

9/18は日銀予想、9/19以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、20日に国債の大量償還・利払いが予定されており、資金需給は大幅な資金余剰となる見込み。新積み期に入ること、無担保コールO/N加重平均レートは多少低下することが見込まれる。レボ市場は、積み期序盤となり、オファーサイドの資金調達ニーズが薄くなると見られる一方で、▲0.10%を下回る水準でのビッドニーズも薄いことから、引き続き▲0.10%近辺で閑散とした地合いになることが予想される。短期市場は、18日に1Y物、21日に3M物の入札が実施予定となっている。3M物に関しては、レートが▲0.10%台前半まで上昇してきていることから、順調な結果が予想される。CP市場は四半期末の有利子負債削減の動きから、発行量はそれほど膨らまないと見られる。投資家・ディーラーの玉確保ニーズの強まりから、9月末越え物のレートがどの程度低下するのか、動向が注目される。

主要なイベントとしては、国内では18～19日の日銀金融政策決定会合、21日の8月の全国CPI、海外では19日の8月の英国CPIが予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。